

# 第1回神奈川県流域下水道経営懇話会 議事録

日時：令和元年12月3日（火）14：30～16：30

場所：神奈川県自治会館3階 301会議室

## 会議次第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 出席者紹介
- 4 会長挨拶
- 5 議事
  - (1) 神奈川県流域下水道経営懇話会について
  - (2) 経営戦略について
  - (3) 神奈川県流域下水道事業の現状について
  - (4) 検討スケジュールについて
  - (5) その他
- 6 閉会

### 【1 開会】

### 【2 挨拶】

県土整備局河川下水道部長が、第1回神奈川県流域下水道経営懇話会の開催にあたり、挨拶した。

### 【3 出席者紹介】

互選により、宇野横浜市立大学教授が懇話会会長に選出された。

### 【4 会長挨拶】

宇野横浜市立大学教授から挨拶があった。

### 【5 議事（1）神奈川県流域下水道経営懇話会について】

事務局から、資料1により説明

- ・質疑特になし。

### 【5 議事（2）経営戦略について】

事務局から、資料2により説明

- ・質疑特になし。

## 【5 議事（3）神奈川県流域下水道事業の現状について】

事務局から、資料3により説明

（質疑）

### <懇話会の方針について>

（構成員）

構成員においては、懇話会で提案等を行っても良いのかを確認したい。

（事務局）

色々な分野の方から集まって頂いていることもあり、提案・意見・質問等幅広いご意見を伺いたい。委員の皆様からの忌憚のない意見を可能な限り取り入れて、経営戦略の参考とすることが目的である。

### <流域下水道について>

（構成員）

神奈川県流域下水道は相模川流域と酒匂川流域以外にないのか、教えて欲しい。

（事務局）

県では相模川流域と酒匂川流域の流域下水道を実施している。他流域については、市町村が単独公共下水道等で対応している。

（構成員）

下水道の種類について伺いたい。

流域関連公共下水道が流域下水道に繋がっているのは理解できるが、どこまでが市町村の管轄で、どこからが県の管轄なのかを教えて欲しい。

（事務局）

流域下水道における県と市町の役割分担は、市町の管轄は、各住宅などから出る下水を細い管で大きい管路に流すところまでである。県の管轄は、複数の市町からの下水を大きい管路で集め、流末にある下水処理場で処理するまでである。

（構成員）

下水道料金は水道を使った量で決まっている。料金をいくら取られているか、県民によく知られていないため、知らせる必要があるのではと考える。それに、汚水と雨水の違いも分かっていない県民が多い。使用料を払っている以上、県民の皆さんが理解できるよう周知させるべきではと思う。

（事務局）

下水道のPRについては県としてもまだ周知が不十分であると認識しており、今後十分に広報等を行う必要があると考えている。

### <経営戦略の取組について>

（構成員）

企業に例えるとお客さんが減って売上が下がり、施設の更新需要で今後はお金が出ていく環境である。これまでと同じように進めるのでは経営的に難しい状況と考えられる。今後の収入や支出の部分について、経営戦略の中で作り込んでいく必要がある。流域下水道ということで、他県も参考にしながら作成してはと考える。経営環境も厳しい中で、数字をしっかりと作って、経営に役立てていければと思う。

(構成員)

経営基盤の強化に向けて、広域化をどう考えるかが大事である。一般廃棄物との連携など、分野横断により対応を図れる部分もあるかと考える。

また、経営については透明性の確保により、市民とどのように結びつくかを考えるべきである。例えば相模川流域という観点であれば、河川に住む魚等を結びつけて、説明する方が解り易いのではと思う。(例えば、下水道が破綻すると、水環境に影響を与えるなど)

省エネや創エネのために機能がアップするという考え方や人材育成という観点も大事である。とりわけ県内に大きい企業もあるため、民間との共同研究で職員の育成を行うのも効果的かと考える。

## <災害対策について>

(構成員)

耐震化率が低い状態にあるが、影響の大きい順に対応されるべきと考えるが、優先順位と100%になるのはいつを予定しているのかを教えて欲しい。

(事務局)

施設が供用中であることや、職員マンパワーの制限もあるため、具体的に何年と言えない部分もあるが、下水道機能の根幹となる施設から順次対策を実施している。具体的には、処理場でポンプアップするための揚水施設、沈殿・消毒するための水処理施設といった重要なものから順番に実施している。

(構成員)

最近の水害に対して、下水道施設において今後、何か対策を行う予定があれば教えて欲しい。

(事務局)

これまでは地震対策が主体であったが、現在、国土交通省が風水害に対応したマニュアルを策定中とのことである。このマニュアルに則った形で、効率よく今後対応していきたいと考えている。

## <水環境の改善について>

(構成員)

茅ヶ崎や平塚の海岸付近では、臭いや海の砂漠化が問題であると感じている。処理水が大量に放流されていることで、ダメージがあるのではと考える。処理水を即時放流するのではなく、場内で溜めて十分に処理した後に放流する等の工夫はできないのか。

(事務局)

処理水をなるべく綺麗にして放流することについては、今後も考えていかないといけないという認識をもっている。

(構成員)

他の処理場では2段階、3段階の処理を行っていると聞いている。処理水はしっかり処理されているのかを教えて欲しい。

(事務局)

処理水は法令等に定める基準を守り処理している。

## <エネルギー回収について>

(構成員)

太陽光発電を行っているとのことだが、利用可能な水が豊富にあるので小水力発電等を行い、なるべく電気を使わない工夫が必要である。また、売電や自家利用を行っても良いのではと考える。

## 【5 議事（4）経営スケジュールについて】

事務局から、資料3により説明

・質疑特になし。

## 【5 議事（5）その他】

(質疑)

### <経営戦略を作成する上での構成>

(構成員)

他の県と同じようなものではなく、神奈川県らしさ、相模川・酒匂川の個性を出して欲しい。

(事務局)

神奈川県らしさについては以前からの課題であり、長らく悩んでいる状態である。ぜひ委員の皆さんのお知恵を頂きたい。個人的には、下水のポテンシャルを使い切れていないと考えている。どう使いきっていくのかがポイントと思っている。

(構成員)

昔、相模川は汚く、鮎釣りが盛んにもかかわらず釣っても食べられなかった。今では相模川の鮎は美味しく食べられるようになった。そういったエピソードも神奈川県らしさ・相模川らしさに含まれると考える。

(構成員)

財政面では、しっかりとコストカットを盛り込むことや企業債の発行、市町村から貰うお金等について、どうすべきかを検討して欲しい。

### <経営戦略に盛り込むべき話題>

(構成員)

水道水の利用減少は、ペットボトルの飲料水を買うことも原因と考えられる。水量の減少は、人口減少だけではなく、他の要因についての調査も必要ではないか。

(事務局)

県営水道での経営計画の中でも、同様の話が出ている。水道使用量の減少については、節水型機器の普及により、1995年に比べて14%減少しているとの調査結果がある。今後も同様な施設の普及が進むことも踏まえて、施設の老朽化などの検討に取り組む必要がある。これらの調査についても、材料として使っていきたい。

(構成員)

人口規模にあった施設に縮小していくことは検討されているか。水害対策を例にとると、浸透できる都市づくりをすれば、雨水管に流す量を減らせるという考え方もある。

また海外では、浸水対策としてハード整備をするのではなく、地表面に浸透させるなど雨水管に流さない努力をした人にインセンティブを与える仕組みもあるとのことなので、そのような豊かなまちづくりを目指してほしい。

(事務局)

広域化や共同化により効率化を図れると期待し、検討を行っている。将来を見据えた下水道の在り方について、言及していきたいと考えている。

(構成員)

KPI（重要業績評価指標）の捉え方について、普通に行った場合に比べて、工夫を行った結果の効果を示せると良いかと思う。

(事務局)

KPIについて、他県の取組も踏まえて検討したい。

(構成員)

法改正やストックマネジメントがどのように盛り込まれるのか、盛り込めるようであれば、しっかりと盛り込んで欲しい。

(構成員)

台風19号では逆流して水害が起きた。市町村で下水の量を調整することで緩和できる部分もあるのではと考える。

(事務局)

雨水対策については市町村で検討が行われており、県としてもこれらの結果を踏まえて必要に応じて対応していく。

(構成員)

水害の発生の中で、倒木による被害を恐れるあまりに、木の伐採が進んでいるように感じる。その結果、余計に水害が進む方向に進んでいる。雨水対策を考える中で、緑の整備といった市民ができる対策についても検討して欲しい。

(事務局)

雨水対策については市町村の方で対策を進めている。今回の経営戦略の議論では、汚水を中心に考えている。

(構成員)

無理に下水道につながなくても合併浄化槽や集落排水が良いのではないかと考えている。下水道が完備されると、河川支流の水量が減る。水は綺麗になるが、川の水位が下がると、生態系としては難しい部分がある。生態系のことも考えると、支流に水を戻すことも必要だと考える。

(事務局)

支流の水量減少の話は下水道としても無視できない話と考える。

(構成員)

水がきれいになったことで、相模川・酒匂川の漁獲量の効果や、海で泳ぐ人が増えたとかの効果（B/Cまで出す必要はないが）明確化できると良い。

## <確認したい資料について>

(構成員)

私の住んでいる市には雨水浸透柵設置の条例がある。流域の市町村で、雨水対策を行っている自治体があるのか教えて欲しい。

(事務局)

下水道では、基本的に市町村が雨水の対策を行うことになっている。雨水対策の状況であるが、50mmの雨で約6割の区域が対策済という状況である。

ただし近年は50mm以上の降雨が多いため、これだけでは不十分とも言える。そこで、施設整備を行うハード対策だけでなく、ソフト対策としてハザードマップ等の整備を進めている状態である。

(構成員)

投資財政計画については今後50年を対象に算定することだが、前提条件により結果が変わると考えられる。収入面や支出面についても、いくつかのパターンで検討を行って欲しい。

(構成員)

職員の経験と知識をどのように共有し、継承していくのか。県がリーダーシップをとって、その仕組みづくりの方法について検討してほしい。

(事務局)

県では技術継承に向けた取組として、勉強会などの県独自の取組も行っている。職員の人材育成を含め、検討していきたい。

(構成員)

PPPについて、検討の結果までいかなくても、可能性について示して欲しい。

(事務局)

PPPについては、色々な場面で包括委託なども含めて取組みを行っている。まだ過渡期であるため、色々なメリット・デメリットがあるので時間をかけて見極めていきたい。

(構成員)

神奈川県内の他の下水道でどのような取り組みをしているか、比較対象として提示して欲しい。